

夢追い人の貴女へ―弥生ちゃんへの手紙

島田 招子（兵庫県西宮市・五十四歳）

弥生ちゃん。

貴女が靈山に旅立って、今年でまる二年が経ちました。

今、貴女がいる世界で貴女は健康を取り戻し、大好きなスイーツをお腹いっぱい食べてるんですよ。

私はね、貴女の病気を初めて知らされた時、とても呑気に構えてました。貴女の並み外れた根性と、負けじ魂の強さを誰よりも知っていたから。手術して少し治療受けたら、すぐにまた元気な貴女に戻るとね。

でも今考えたら、それは貴女がもしかしたら私の前からいなくなってしまうかもしれないという、とてつもなく大きな不安や寂しさから逃れたい一心で、貴女の完治を決めつけていたのかもしれない。まだ病気の進行もなく元気に貴女は存在してくれているのに、毎晩の様に貴女がこの世からいなくなる恐怖と向かい合わせていました。

貴女は困ってる人、悩みを抱えてる人がいれば、どれだけ遠方でも車を飛ばして、その人達の元へ駆けつけていましたね。凄いなあって、いつも感心してましたよ。

なのに、貴女自身もまさかこんなに早く旅立つなんて、これっぽっちも考えてなかったんだろうな。在宅看護からホスピスに入院すると、貴女から連絡もらった時、何故か私は冷静でした。

あれだけ恐れていた、貴女との別れがもう目の前に訪れているというのに。ザワザワし続けてた胸の苦しさも消えて、頭の中の雑念も消えて、自分が透明人間にでもなったかの様に。貴女の方で、不安だらけな私の心を浄化してくれたんですね。

貴女が亡くなる前日、私は無性に貴女に会いたくなって、病院に行きました。貴女が元気な頃、二人で会ってる時は貴女は大きな声で笑顔いっぱい、ずっと笑わせてくれましたね。そして近いうちにまた会おうね！と、約束しましたね。約束通り今、貴女と私は会えたね。

貴女は小さなお人形さんみたいになって、ベッドに身体を横たえてました。ずっとウィッグを着けてたけど、元通りの黒髪が肩のあたりまで伸びていましたね。全ての辛い治療から解放されて、貴女は新しい世界へと旅立つ準備をしていました。本当にお疲れさまでした。

今頃、貴女はきつと朝から晩まで貴女の世界で友人作りに走り回ってる事でしょう。

大好きなスイーツを食べながら。

弥生ちゃん、お疲れさまでした。

そして、親友でいてくれて本当にありがとう。